

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第298回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成23年7月15日（金） 9:30~15:45

2. 場 所 東京都市大学 世田谷キャンパス 3号館・メモリアルホールA

3. 出席者 35名 （順不同・敬称略）

委員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 稲垣道夫（北大名誉）、安田榮一（東工大）、吉田明（東京都市大）、
豊田昌宏（大分大）、小林知洋（理研）

委 員： 岩下哲雄（産総研）、蛭谷玄太（コバレントマテリアル／代理：吉光
大志）、沖野不二雄（信州大）、鎗木裕（東京都市大）、川野陽一（新
日鐵化学／代理：柴田和哉）、近藤純子（東洋炭素／代理：森下隆広）、
塩山洋（産総研）、柴田大受（原子力機構）、新野仁（物材機構）、
園部直弘（クレハ／代理：小松真友）、戸田晋次郎（日本電極）、
羽鳥浩章（産総研）、平原聡（三菱化学）、向井紳（北大）、土屋広志
（鉄道総研）

委員 外： 木村脩七（東工大）、寺西春夫（石川カーボン科学技術振興財団）、
中村和正（福島大）、夏目勇（東海カーボン）、西澤節（神戸製鋼）、
菱山幸宥（東京都市大）、宮嶋尚哉（山梨大学）

同伴者他： 藤田一郎（東洋炭素）、斉藤幸恵（東大）、曾根田靖（産総研）、吉澤徳子
（産総研）、棚池修（産総研）、高木英行（産総研）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

以下を修正の後、第297回議事録（案）を承認した。

4.1 第297回議事録（案）→第296回議事録（案）

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

(退会)

元横浜国大教授 鳥飼直親氏（委員外）ご親族より今後出席不可との連絡。（その後6/22 ご逝去との報あり）

(b) 300回記念シンポジウムについて

正式名称は「学振 117 委員会第 300 回記念国際シンポジウム」、英名「JSPS 117 committee 300th memorial international symposium」とした。11/17（木）の午後から東大（本郷）の山上会館にて開催。招聘状況は Dr. Hui-Ming Cheng（中国）、Dr. Kap Seung Yang（韓国）、Dr. L. M. Manocha（インド）については了承済み。

(c) 量子ビーム融合化利用研究について

量子ビーム融合化利用研究に関する先導的研究開発委員会（学振・平成 22.04.01～25.03.31）の2年目がスタート。科研費新学術領域研究（研究領域提案型）のH24年度採択へ向けてテーマの見直しが行われる予定。117委員会としては豊田幹事を中心に今年度も協力し、提言と実績作りを行う。117代表委員も寺井委員長から豊田幹事に交代する。中性子源である J-PARC、JRR-3 については震災の影響を受け年度内に一般利用が再開出来るか予断を許さない状況。

(d) 産業界委員からの幹事委嘱について

産業界委員へ幹事を委嘱する件に関して、役割を明確化して炭素協会に人選を依頼中。

(e) 次回以降の予定について

H23 第3回（299回）9月9日 総評会館（会場担当：児玉幹事）

H23 第4回（300回）11月17,18日（17日は記念シンポ）東京大学本郷キャンパス
山上会館（会場担当：寺井委員長）

（来年度の日程は9月に概案公表、11月に確定予定）

(2) 分科会報告

- (117-298-A-1) 芳香族ポリイミドフィルムから調製した黒鉛フィルムの熱伝導率
--- 電気抵抗率、抵抗率比および最大横磁気抵抗との相関
○ 鍋木裕¹, 本村健¹, 吉田明², 菱山幸宥³,

(東京都市大工¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大名誉教授³)

- (117-298-A-2) グラファイトの室温基底面固有熱伝導率
○菱山幸宥¹, 吉田明², 鎗木裕³,
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大工³)
- (117-298-B-1) 炭素材料の官能基に関する問題提起(I)
○西澤節 (元神戸製鋼)
- (117-298-C-1) 超高温ガス炉(VHTR)に用いる C/C 複合材料の酸化による材料特性の変化
○藤田一郎¹, 柴田大受² (東洋炭素¹, 日本原子力研究開発機構²)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口幹事より以下の報告があった。

- (a) 現在会員数 (6/7 現在) 正会員 770 名 学生会員 190 名 合計 960 名
賛助会員 53 社 58 口
- (b) 先端講習会 エネルギー変換デバイスおよび電解プロセスに関わる炭素材料の劣化
(京都テルサ) 6月17日(金) (69名参加)
- (c) 第49回夏季セミナー(倉敷市) 8月29日(月)～31日(水) 岡山大学理学部 後藤和馬先生 炭素誌 2011 No.247 会告(4月号)
- (d) CARBON2011 参加補助 35歳以下 申し込み 3名
- (e) スキルアップセミナー 燃料電池開発の現状とカーボン材料 (総評会館) 講演 5件
予定 9月2日(金)
- (f) 10月セミナー グラフェン関係(日本教育会館) 10月14日(金)
- (g) 第38回炭素材料学会年会 (名古屋大学豊田講堂) 11月29日(火)～12月1日(木)
講演申込み締切 8/30, 参加登録締切 11/15, 口頭発表はパソコン持参
- (h) 第39回炭素材料学会年会 2012年11月28日(水)～11月30日(金) 長野市
- (i) 学会賞 7月末締切
- (j) 文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)・若手科学者賞 炭素材料学会から候補者
推薦予定
- (k) Peter A. Thrower Award 稲垣道夫先生受賞

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

(l) 248号は発行済み（受賞者レビュー、日独セミナー小特集）

(m) 250号は特集号「ハロゲンと炭素材料」投稿締切 7/15

(n) J-stage の電子投稿審査システムを利用したいが、実績として年間 50 報以上の査読が行われている必要がある。現在は 40 報程度で上積みが必要。

(2) 国際会議関係

特になし

(以上)